

平成 31 年度 鹿児島大学 2 次試験前期日程 (数学問題)
理・工・医・歯・農・水産・共同獣医・教育学部
平成 31 年 2 月 25 日

- 理 [数理・物理・地環]・工・医 [医]・歯学部 [1] [2] [6] [7] 必答,
[3] [4] [5] から 1 問選択. 数 I・II・III・A・B(120 分)
- 理 [生命化]・農・水産・共同獣医学部 [1] [2] 必答,
[3] [4] [5] から 1 問選択. 数 I・II・A・B(90 分)
- 教育 [数学・理科・技術・教育・心理・家政・国語・社会・英語・特別支援教育・健康教育] 学部 [1] 必答, [3] [4] [5] から 1 問選択, [2] [8] から 1 問選択. 数 I・II・A・B または 数 I・III・A・B(90 分)

[1] 次の各問いに答えよ.

- (1) 平面上で 2 点 $A(3, 1)$, $B(1, 4)$ から等距離にある点全体のなす直線 l の方程式を求めよ. さらに, 点 $P(2, 2)$ は, 直線 l が分ける 2 つの領域のうち, 点 A のある領域, 点 B のある領域のどちらに属するかを調べよ.
- (2) 有限集合 X の要素の個数を $n(X)$ で表すことにする. 全体集合 U は有限集合で $n(U) = 100$ とし, A, B は U の部分集合で $n(A) = 30$, $n(B) = 80$ とする. $n(A \cap B)$ のとり得る値の最大値および最小値を求めよ.
- (3) 方程式 $5x + 8y = 139$ を満たす正の整数の組 (x, y) をすべて求めよ.

[2] 実数 α, β に対して, 整式

$$f(x) = x^4 + 2\alpha x^3 + (\alpha^2 - \beta^2 + 2)x^2 + 2\alpha x + 1$$

を考える.

- (1) $y = x + \frac{1}{x}$ とおく. このとき $\frac{1}{x^2}f(x)$ を y の整式で表せ.
- (2) $(\alpha, \beta) = \left(\frac{1}{2}, \frac{3}{2}\right)$ のとき, 方程式 $f(x) = 0$ の解をすべて求めよ.
- (3) 方程式 $f(x) = 0$ がちょうど 1 つの解をもつような (α, β) をすべて求めよ.

3 実数 p に対して、数列 $\{a_n\}$ は

$$a_1 = 1, \quad a_{n+1} = pa_n + 3n^2 + 3n \quad (n = 1, 2, 3, \dots) \quad \dots (*)$$

を満たす.

- (1) $p = 1$ のとき、 $\{a_n\}$ の一般項を求めよ.
- (2) p が 1 でないとき、漸化式 (*) は実数 α, β, γ を用いて

$$a_{n+1} + \alpha(n+1)^2 + \beta(n+1) + \gamma = p(a_n + \alpha n^2 + \beta n + \gamma)$$

とかき表せる. α, β, γ を p を用いて表せ.

- (3) $p = 2$ のとき、 $\{a_n\}$ の一般項を求めよ.

4 xyz 空間上に、点 $A(1, 0, 0)$, 点 $B(-1, b, b)$, 球 $S: x^2 + (y-1)^2 + z^2 = 1$ がある. ただし、 b は実数とする. 原点を O とする.

- (1) 直線 AB 上の点 P を、実数 t を用いて $\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{AB}$ と表すとき、点 P の座標を b, t を用いて表せ.
- (2) 直線 AB が球 S と共有点をもつような b の値の範囲を求めよ.
- (3) 球 S の中心を C とする. b が (2) の値の範囲を動くとき、三角形 ABC の面積 T の最大値と最小値を求めよ.

5 1 から 10 までの数字が 1 つずつ書かれた 10 枚のカードがある. この中から 1 枚のカードを無作為に取り出し、書かれた数を記録してもとに戻す. この試行を n 回行い、 i 回目に取り出したカードに書かれた数を X_i とする. さらに、それらの n 個の数 X_1, X_2, \dots, X_n を小さい順に並べかえたものを $X_{(1)} \leq X_{(2)} \leq \dots \leq X_{(n)}$ とする.

- (1) 確率 $P(X_{(n)} \leq 8)$ を求めよ.
- (2) 確率 $P(X_{(n)} = 8)$ を求めよ.
- (3) n を 2 以上とするとき、 $X_{(2)}$ が 6 以上となる確率が $\frac{1}{2}$ 未満となる最小の試行回数 n を求めよ.

6 0でない複素数 z に対して, $w = x + yi$ を $w = z^2 + \frac{\bar{z}}{z}$ とする. ただし, x と y は実数, i は虚数単位とし, \bar{z} は z と共役な複素数とする.

- (1) 0でない複素数 z について, z の絶対値を r , 偏角を θ とするとき, z , $\frac{1}{z}$, \bar{z} を, それぞれ r , θ を用いて極形式で表せ.
- (2) 複素数平面上で点 z が原点を中心とする半径1の円の周上を動くとき, 点 w が描く図形を求めよ.
- (3) $r > 1$ とする. 複素数平面上で点 z が原点を中心とする半径 r の円の周上を動くとき, 点 w が描く曲線 C の方程式を x , y を用いて表せ.
- (4) $r > 1$ とする. (3) の曲線 C で囲まれた部分の面積を r を用いて表せ.

7 関数 $f(x) = \log(1+x)$ ($x \geq 0$) を考える. xy 平面上の $y = f(x)$ のグラフを y 軸のまわりで一回転させてできる形の容器がある. はじめ空である容器に, 時刻 t における水の量が vt になるように, 単位時間あたり v の一定の割合で水を静かに注ぐ. ただし, v は正の定数とし, 容器は回転軸 (y 軸) が水平面に垂直で, y 軸の正の側を上向きにして固定されている.

- (1) xy 平面で $y = f(x)$ の増減と凹凸を調べてグラフをかけ.
- (2) 水面の高さが h になったときの, 容器内の水の量 V を h を用いて表せ.
- (3) 水面の高さが $h = \log 2$ になったときの, 水面の高さの変化率 $\frac{dh}{dt}$ を求めよ.

8 曲線 $y = e^x$ の接線で, 原点を通るものを l とする.

- (1) 接線 l の方程式を求めよ.
- (2) 曲線 $y = e^x$, 接線 l および直線 $y = x + 1$ で囲まれた部分の面積を求めよ.

解答例

- 1 (1) 平面上の点を $X(x, y)$ とする. $A(3, 1)$, $B(1, 4)$ より

$$\begin{aligned} BX^2 - AX^2 &= \{(x-1)^2 + (y-4)^2\} - \{(x-3)^2 + (y-1)^2\} \\ &= 4x - 6y + 7 \quad \cdots (*) \end{aligned}$$

l は $AX = BX$ を満たす点 X の軌跡の方程式であるから

$$l: 4x - 6y + 7 = 0$$

(*) により $BP^2 - AP^2 = 4 \cdot 2 - 6 \cdot 2 + 7 = 3 > 0$ ゆえに $BP > AP$ によって, 点 P は点 A のある領域に属する.

別解 $AP = \sqrt{2}$, $BP = \sqrt{5}$ より $AP < BP$ によって, 点 P は点 A のある領域に属する.

- (2) $n(A \cap B) = x$ とおくと, 右の表から

$$\begin{cases} x \geq 0 \\ 30 - x \geq 0 \\ 80 - x \geq 0 \\ x - 10 \geq 0 \end{cases}$$

	B	\overline{B}	合計
A	x	$30 - x$	30
\overline{A}	$80 - x$	$x - 10$	70
合計	80	20	100

これを解いて $10 \leq x \leq 30$ によって $10 \leq n(A \cap B) \leq 30$

- (3) $5x + 8y = 139 \cdots (*)$ より, $5 \equiv 0$, $8 \equiv 3$, $139 \equiv 4 \pmod{5}$ であるから

$$3y \equiv 4 \quad \text{ゆえに} \quad 2 \cdot 3y \equiv 2 \cdot 4 \quad \text{すなわち} \quad y \equiv 3 \pmod{5}$$

$y = 3 + 5k$ (k は整数) \cdots ① を (*) に代入すると

$$5x + 8(3 + 5k) = 139 \quad \text{ゆえに} \quad x = 23 - 8k \quad \cdots$$
 ②

x, y は正の整数であるから, ①, ② より

$$\begin{cases} 23 - 8k > 0 \\ 3 + 5k > 0 \end{cases} \quad \text{これを満たす整数 } k \text{ は } k = 0, 1, 2$$

よって $(x, y) = (23, 3), (15, 8), (7, 13)$ ■

2 (1) $f(x) = x^4 + 2\alpha x^3 + (\alpha^2 - \beta^2 + 2)x^2 + 2\alpha x + 1$ より

$$\begin{aligned}\frac{1}{x^2}f(x) &= x^2 + 2 + \frac{1}{x^2} + 2\alpha\left(x + \frac{1}{x}\right) + \alpha^2 - \beta^2 \\ &= \left(x + \frac{1}{x}\right)^2 + 2\alpha\left(x + \frac{1}{x}\right) + \alpha^2 - \beta^2 \\ &= \mathbf{y^2 + 2\alpha y + \alpha^2 - \beta^2}\end{aligned}$$

(2) (1)の結果から $\frac{1}{x^2}f(x) = (y + \alpha + \beta)(y + \alpha - \beta) \dots (*)$

これに $(\alpha, \beta) = \left(\frac{1}{2}, \frac{3}{2}\right)$ を代入すると

$$\frac{1}{x^2}f(x) = (y + 2)(y - 1) = \left(x + \frac{1}{x} + 2\right)\left(x + \frac{1}{x} - 1\right)$$

$$\begin{aligned}\text{したがって } f(x) &= (x^2 + 2x + 1)(x^2 - x + 1) \\ &= (x + 1)^2(x^2 - x + 1)\end{aligned}$$

よって、方程式 $f(x) = 0$ の解は $x = -1$ (2重解), $\frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2}$

(3) $f(x) = 0$ のとき, (*) より

$$y = -\alpha \pm \beta \quad \text{すなわち} \quad x + \frac{1}{x} = -\alpha \pm \beta \quad \dots (**)$$

ここで、 $x + \frac{1}{x} = k$ とおくと (k は定数) $x^2 - kx + 1 = 0 \quad \dots \textcircled{1}$

$\textcircled{1}$ が重解をもつとき、係数について

$$(-k)^2 - 4 \cdot 1 = 0 \quad \text{これを解いて} \quad k = \pm 2, \quad \text{重解} \quad \frac{k}{2}$$

$k = 2$ (重解 1) のとき, (**) より

$$-\alpha + \beta = -\alpha - \beta = 2 \quad \text{ゆえに} \quad (\alpha, \beta) = (-2, 0)$$

$k = -2$ (重解 -1) のとき, (**) より

$$-\alpha + \beta = -\alpha - \beta = -2 \quad \text{ゆえに} \quad (\alpha, \beta) = (2, 0)$$

よって、 $f(x) = 0$ がちょうど 1 つの解をもつとき $(\alpha, \beta) = (\pm 2, 0)$ ■

3 (1) $p = 1$ より, $a_1 = 1$, $a_{n+1} - a_n = 3n^2 + 3n$ であるから, $n \geq 2$ のとき

$$\begin{aligned} a_n &= a_1 + \sum_{k=1}^{n-1} (a_{k+1} - a_k) = 1 + \sum_{k=1}^{n-1} (3k^2 + 3k) \\ &= 1 + 3 \cdot \frac{1}{6} n(n-1)(2n-1) + 3 \cdot \frac{1}{2} n(n-1) \\ &= n^3 - n + 1 \end{aligned}$$

上式は, $n = 1$ のときも成立するから $a_n = n^3 - n + 1$

別解 $a_{n+1} - a_n = 3n(n+1) = \{(n+2) - (n-1)\}n(n+1)$ より

$$\begin{aligned} a_{n+1} - a_n &= n(n+1)(n+2) - (n-1)n(n+1) \\ a_{n+1} - n(n+1)(n+2) &= a_n - (n-1)n(n+1) \end{aligned}$$

したがって $a_n - (n-1)n(n+1) = a_1 - (1-1) \cdot 1 \cdot (1+1)$

よって $a_n = n^3 - n + 1$

(2) (*) より $a_{n+1} - pa_n = 3n^2 + 3n \quad \dots \textcircled{1}$

与えられた漸化式

$$a_{n+1} + \alpha(n+1)^2 + \beta(n+1) + \gamma = p(a_n + \alpha n^2 + \beta n + \gamma) \quad \dots (**)$$

を変形すると

$$\begin{aligned} a_{n+1} - pa_n &= (p-1)\alpha n^2 + \{(p-1)\beta - 2\alpha\}n \\ &\quad + \{(p-1)\gamma - \alpha - \beta\} \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

$\textcircled{1}$, $\textcircled{2}$ の右辺の同じ次数の項の係数を比較して

$$(p-1)\alpha = 3, \quad (p-1)\beta - 2\alpha = 3, \quad (p-1)\gamma - \alpha - \beta = 0$$

$$p \neq 1 \text{ に注意して } \alpha = \frac{3}{p-1}, \quad \beta = \frac{3(p+1)}{(p-1)^2}, \quad \gamma = \frac{6p}{(p-1)^3}$$

(3) (2) の結果に $p = 2$ を代入すると $\alpha = 3$, $\beta = 9$, $\gamma = 12$

$b_n = a_n + 3n^2 + 9n + 12$ とおくと $b_1 = 25$ (***) より $b_{n+1} = 2b_n$

$\{b_n\}$ は初項 25, 公比 2 の等比数列であるから $b_n = 25 \cdot 2^{n-1}$

したがって $a_n + 3n^2 + 9n + 12 = 25 \cdot 2^{n-1}$

よって $a_n = 25 \cdot 2^{n-1} - 3n^2 - 9n - 12$ ■

- 4 (1) 原点 O , $A(1, 0, 0)$, $B(-1, b, b)$ より, $\vec{AB} = (-2, b, b)$ であるから

$$\vec{OP} = \vec{OA} + t\vec{AB} = (1, 0, 0) + t(-2, b, b) = (1 - 2t, bt, bt)$$

よって $P(1 - 2t, bt, bt)$

- (2) (1) で求めた点 P の座標を球 $S: x^2 + (y - 1)^2 + z^2 = 1$ に代入すると

$$(1 - 2t)^2 + (bt - 1)^2 + (bt)^2 = 1$$

$$2(b^2 + 2)t^2 - 2(b + 2)t + 1 = 0$$

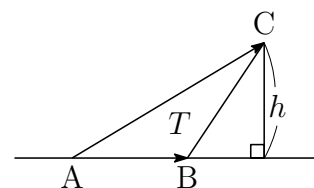
このとき, t に関する 2 次方程式が実数解をもつから, 判別式 D について

$$D/4 = (b + 2)^2 - 2(b^2 + 2) \cdot 1 = -b^2 + 4b \geq 0$$

したがって $b(b - 4) \leq 0$ これを解いて $0 \leq b \leq 4$

別解 $\vec{AB} = (-2, b, b)$, $\vec{AC} = (-1, 1, 0)$ より,
 $\triangle ABC$ の面積 T は

$$\begin{aligned} T &= \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{AB}|^2 |\vec{AC}|^2 - (\vec{AB} \cdot \vec{AC})^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{(2b^2 + 4) \cdot 2 - (2 + b)^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{3b^2 - 4b + 4} \quad \dots (*) \end{aligned}$$



C から直線 AB に下ろした垂線の長さを h とすると

$$\frac{1}{2} |\vec{AB}| h = T \quad \text{ゆえに} \quad h = \frac{2T}{|\vec{AB}|} = \frac{\sqrt{3b^2 - 4b + 4}}{\sqrt{2b^2 + 4}}$$

このとき, $h \leq 1$ であるから $\sqrt{\frac{3b^2 - 4b + 4}{2b^2 + 4}} \leq 1$

したがって $3b^2 - 4b + 4 \leq 2b^2 + 4$ これを解いて $0 \leq b \leq 4$

- (3) $3b^2 - 4b + 4 = 3\left(b - \frac{2}{3}\right)^2 + \frac{8}{3}$ であるから, (*) および (2) の結果より,

T は, $b = 4$ のとき最大値 3 , $b = \frac{2}{3}$ のとき最小値 $\frac{\sqrt{6}}{3}$ をとる. ■

- 5 (1) $P(X_{(n)} \leq 8)$ は n 回とも 8 以下の数字のカードを取り出す確率であるから

$$P(X_{(n)} \leq 8) = \left(\frac{8}{10}\right)^n = \left(\frac{4}{5}\right)^n$$

- (2) n 回とも 7 以下の数字のカードを取り出す確率は

$$P(X_{(n)} \leq 7) = \left(\frac{7}{10}\right)^n$$

これと (1) の結果から、求める確率は

$$\begin{aligned} P(X_{(n)} = 8) &= P(X_{(n)} \leq 8) - P(X_{(n)} \leq 7) \\ &= \left(\frac{8}{10}\right)^n - \left(\frac{7}{10}\right)^n = \frac{8^n - 7^n}{10^n} \end{aligned}$$

- (3) $X_{(2)}$ が 6 以上となるのは、 n 回の試行で、5 以下のカードを取り出す回数が 1 回以下の場合で、その確率は

$${}_nC_1 \left(\frac{1}{2}\right)^n + \left(\frac{1}{2}\right)^n = \frac{n+1}{2^n}$$

この確率が $\frac{1}{2}$ 未満となるとき

$$\frac{n+1}{2^n} < \frac{1}{2} \quad \text{ゆえに} \quad 2^{n-1} - n - 1 > 0$$

$f(n) = 2^{n-1} - n - 1$ とおくと、 $f(n) > 0$ をみたす最小の整数 n ($n \geq 2$) を求めればよい。

$$f(2) = -1, \quad f(3) = 0, \quad f(4) = 3 > 0 \quad \text{よって} \quad n = 4$$



6 (1) $z = r(\cos \theta + i \sin \theta)$,

$$\frac{1}{z} = \frac{1}{r(\cos \theta + i \sin \theta)} = \frac{1}{r} \{\cos(-\theta) + i \sin(-\theta)\},$$

$$\bar{z} = r(\cos \theta - i \sin \theta) = r \{\cos(-\theta) + i \sin(-\theta)\}$$

(2) (1) の結果により

$$\begin{aligned} w &= z^2 + \frac{\bar{z}}{z} = r^2(\cos \theta + i \sin \theta)^2 + \{\cos(-\theta) + i \sin(-\theta)\}^2 \\ &= r^2(\cos 2\theta + i \sin 2\theta) + \cos(-2\theta) + i \sin(-2\theta) \\ &= (r^2 + 1) \cos 2\theta + (r^2 - 1) i \sin 2\theta \quad \cdots (*) \end{aligned}$$

z が原点を中心とする半径 1 の円の周上を動くから、 $r = 1$ より

$$w = 2 \cos 2\theta \quad \text{ゆえに} \quad -2 \leq w \leq 2$$

よって、点 w は 2 点 $2, -2$ を両端とする線分を描く.

(3) (*) より $x = (r^2 + 1) \cos 2\theta$, $y = (r^2 - 1) \sin 2\theta$

$$r > 1 \text{ に注意して } \cos 2\theta = \frac{x}{r^2 + 1}, \quad \sin 2\theta = \frac{y}{r^2 - 1}$$

$$\text{したがって } C: \frac{x^2}{(r^2 + 1)^2} + \frac{y^2}{(r^2 - 1)^2} = 1$$

(4) (3) の結果より、 C は原点を中心とする長軸の長さ $2(r^2 + 1)$ 、短軸の長さ $2(r^2 - 1)$ の楕円であるから、その面積は

$$\pi(r^2 + 1)(r^2 - 1) = \pi(r^4 - 1)$$



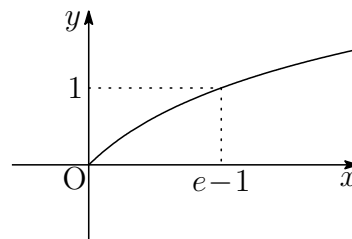
7 (1) $f(x) = \log(1+x)$ ($x \geq 0$) より,

$x > 0$ において

$$f'(x) = \frac{1}{1+x} > 0,$$

$$f''(x) = -\frac{1}{(1+x)^2} < 0$$

x	0	...
$f'(x)$		+
$f''(x)$		-
$f(x)$	0	↗



(2) $y = \log(1+x)$ より, $x = e^y - 1$ であるから

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^h x^2 dy = \pi \int_0^h (e^y - 1)^2 dy \quad \dots (*) \\ &= \pi \int_0^h (e^{2y} - 2e^y + 1) dy \\ &= \pi \left[\frac{e^{2y}}{2} - 2e^y + y \right]_0^h = \pi \left(\frac{e^{2h}}{2} - 2e^h + h + \frac{3}{2} \right) \end{aligned}$$

(3) $V = vt$ より $\frac{dV}{dt} = v$, (*) より $\frac{dV}{dh} = \pi(e^h - 1)^2$,

これらを $\frac{dV}{dt} = \frac{dV}{dh} \cdot \frac{dh}{dt}$ に代入すると $v = \pi(e^h - 1)^2 \frac{dh}{dt} \quad \dots (**)$

$h = \log 2$ のとき, $e^h = 2$ を (**) に代入すると

$$v = \pi(2 - 1)^2 \frac{dh}{dt} \quad \text{よって} \quad \frac{dh}{dt} = \frac{v}{\pi}$$



8 (1) $y = e^x$ より $y' = e^x$

曲線 $y = e^x$ 上の点 (t, e^t) における接線の方程式は

$$y - e^t = e^t(x - t) \quad \text{ゆえに} \quad y = e^t(x - t + 1) \quad \cdots (*)$$

これが原点を通るとき $0 = e^t(-t + 1)$ ゆえに $t = 1$

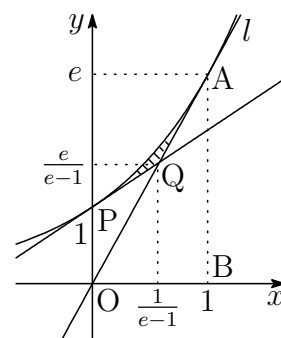
$t = 1$ を (*) に代入することにより, l の方程式は $y = ex$

- (2) (1) で求めた接点を $A(1, e)$ とし, $B(1, 0)$ とおく.
直線 $y = x + 1$ は, (*) により, 点 $(0, 1)$ における接線で, その接点を P とする.

$l: y = ex$ と直線 $y = x + 1$ の交点を Q とすると

$$Q\left(\frac{1}{e-1}, \frac{e}{e-1}\right)$$

求める面積は右の図の斜線部分で, その面積を S とすると



$$\begin{aligned} S &= \int_0^1 e^x dx - \triangle OAB - \triangle OPQ \\ &= \left[e^x \right]_0^1 - \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot e - \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \frac{1}{e-1} \\ &= \frac{e}{2} - \frac{1}{2(e-1)} - 1 \end{aligned}$$

■